

島のむんがたり

亀津の歴史散歩① ～北区を中心にく

今回は亀津の街の歴史散歩、まずは亀津北部からです。文化会館などの町施設が集まる一角には、亀津海岸埋立て事業完成の記念碑があります。昭和42年から14年間かけ、幅約200メートル、長さ約1500メートルにわたって埋立てられました。碑の後ろにあつた大岩「軍艦石」は、昭和60年代に撤去。横の路地が不自然に曲がっているのは、この大岩があつたためです。

ここから旧県道へ。ファミマ北店の横には、今も高い崖が旧県道に覆いかぶさるように迫り、かつては亀津、亀徳との境界域でした。



埋立完工記念碑とかつてあった軍艦岩

ファミマやモリ自動車のあたりにも、ホソウマタの丘が迫っています。そこから旧県道を南に進むとアンドゴウ川が流れています。橋を渡ると右手はフナタイの崖。その北端は亀津の「拝み山」です。亀津に入る時は、この山に一礼するものだつたそうです。拝み山に建つているのは秋葉神社。祠の真後ろに崖葬墓（崖の中腹の窪みに遺体を風葬する古い風習）があつて、手を合わせると崖葬墓を拝む感じになります。拝み山の神様は、このお墓の主なのかもしれません。

徳之島高校に向かつて少し歩くと、左右に広がるのは「フナタイ墓地」。江戸時代は県道下の墓地の3分の2ほどの広さで、当時としてはかなり大きなものでした。墓地横の崖の窪みには複数の崖葬墓が残つていて、今でも祀つている方がおられるようです。これらの風葬跡は墓地（土葬文化）ができる前までの葬制になります。

徳之島高校のある丘は「クラン

クシ」と言います。かつて丘の下に藩の御蔵があり、その後ろの丘という意味です。畑が広がる場所でした。が、昭和16年に村立青年学校が建てられ、終戦間もない昭和21年に亀津高等女学校が開校。徳之島高校は女学校（2年後に実業学校）を引き継いで開校しました。学校前の旧県道は大正時代に入つて開通した道路で、それまで道らしい道はありませんでした。

坂を下りきつて右に曲がると亀津小学校の路地。曲がり角一帯は「上の殿内」と呼ばれる場所で、琉球時代から亀津を治める役人の家がありました。そのまま上にはNTTの社屋。ここが薩摩藩によつて建てられた「安住寺」跡です。明治4年に徳之島初の学校（後の亀津小学校）がここに開校。亀津が「日本一の学士村」になる礎となりました。その後亀津小は明治21年に中区の旧代官所前に移転。さらに明治41年に龍野定一先生の生家周辺を買い取つて現在地に移転しました。続きはまた次回。（町誌編さん室 米田博久）